

2012年8月よりアメリカ合衆国カリフォルニア大学バークレー校工学部 Applied Science and Technology 博士課程に所属しています、森です。簡単に近況等をレポートさせていただきます。

1. 論文について

数年前から取り組んでいたプロジェクトが、自分なりに良い感じにケリがついたので論文にすべく原稿を書きました。普通は原稿を書いたら指導教員や共著者に見せて、フィードバックをもらって書き直すというサイクルを何度か繰り返し最終的にサブミットまでいきます。しかし、僕の指導教官は（というか世界中のいい感じの教授たちほぼ全員でしょうが）超絶に多忙な上に、僕のやっていたこのプロジェクトに全く興味の無い事も重なり、どうやら彼女の中でのめちゃくちゃ優先順位が低いようで、なかなかフィードバックが返ってきません。

ええ～、いやいや、おいおい、まじかよ、話と違うじゃんか！普通は「いや～、教授から論文添削してもらったんだけど、真っ赤になって返ってきたわ～(笑)」 「共著者たちに投げたら全く別物になって返ってきた(笑)(照)」みたいな感じになるんじゃないの！？そういう論文あるあるネタが発生するんじゃないの！？俺もそういうあるあるネタで談笑したいんだけど！

ってな感じに焦りが生じました。ちょくちょくマイルドに媚びへつらいながら「ぼ、ぼく、論文、書いたんだけど、み、み、みてね！」と教授に言い続け、その結果数ヶ月経過してゲットした唯一のフィードバックが「make it more interesting! (もっと面白く書きな!)」だったりしたあの時の気持ちを僕はきっと一生忘れないと思います。そんなこんなで、約半年前に書き上げた原稿が未だにサブミットまでいきません。もうフィードバックもクソもないので、自分で自分の論文をひたすら練り直す日々です。「教授に論文超直されたわ～」っていう奴が周りにうじゃうじゃいる中、一人で夜中自分の論文を黙々とセルフ添削していると「俺は一体何をやっているんだ…こ、これが…空(くう)か!!」と己の中のブツダが目を覚ましました。まあきつとこういう風に自力オンリーで自分でゼロから論文を仕上げるというトレーニングが日の目をみる時がきつとく…(気絶)

2. 研究について(ほぼ雑感)

いやいやいや、マジでコレ(上記のソレ)だけじゃいかんぜよ！と思い立ち、コソコソと新しい課題をみつけ、コソコソと実験をしては解析を進めています。やっぱり流行りに乗らねばいかんぜよ！と雄々(おお)しく当時の流行りに沿った風にプロジェクトを(勝手に)始めたものの、どうやらいい感じの論文に仕上げる為にはどうし

でも理論計算が必要なことがわかってきました。

普通そういう時は理論計算はプロ計算屋さんに相談してコラボレーションします。しかし僕には以前に自称プロとコラボして長い時間かけた結果何も生み出せなかったというトラウマがありました。そんな中、深夜のテンションも手伝ってか、はたまた見聞色の覇気に目覚めたのかわからないですが、どこかから変な声がきこえてきました。「YOU、自分でやっちゃいなよ」と。

僕の指導教授は、基本的にそういった計算に手を出すことは反対な人だったので（過去、計算にハマっていた学生（or ポスドク）がいたけど、結局2年ほど何も結果が出ずに辞めていったという経験があるそうで）、彼女に僕が計算を始めたことをバレないように出来るだけ引きこもり、独学で文字通りゼロからスタートしました。計算パッケージ（無料）を見つけ出し、ヒィヒィ言いながら自分のノートパソコンに入れ込みましたが、もうインストールする作業だけで大量のカロリーと気力を消耗します。というのも、（自分で言うのもアレですが）僕は破壊的にパソコンができません。もうこの「パソコンができない」という表現で分かる通り、本当にほぼ化石です。ていうかもう化石です。学部時代のレポート等も手書きでやることに謎のロマンを感じていたバリバリの老害候補でしたし、一生ワードとエクセルとパワポだけで生きて行くつもりでした。そんな情弱で老害な僕ですので、「コマンドライン…？こ、コンパイル…？」とか赤ちゃんレベルで言葉の意味がわかりませんでした（いや流石に英単語としてはわかりますが）。

しかし、過去数年間毎日毎日、雨の日も風の日も（ネット）サーファーとしてボード（ノートパソコンのこと）一枚でこの（ネットの）大海原に繰り出していた僕の（ネット）サーフィンテクニックによってとにかく調べまくり、簡単なものなら論文に乗っている結果などを再現できるところまで想定より早い段階で行き着きました。もちろん、普通はこういう理論計算はスーパーコンピューターやコア/メモリが大量に搭載された計算機を使用するので、僕個人のパソコン（当時2コア、メモリ8GB）ではやれることは限られています。しかしやれることの幅が少しでも増えたのはとても喜ばしいことですし、またある意味視野も広がりました。計算屋さんとコラボした際、「この計算は難しいから全然進められてない」と、スパコンをも駆使するその道のプロが言う進捗報告を、今までは「わぁそうなんだ〜！」と素直に信じていましたが、今だと（え、それ僕が自分のパソコンでできるレベルの計算だったけど…）といった風に、知りたくなかったことがわかるようになりました。こうやってどんどん性格がねじ曲がっていくのかもしれない。手遅れか、手遅れなのか。